



尾久西だより

荒川区立尾久西小学校
発行日 平成31年2月8日
発行者 校長 末永 寿宣

No. 334 2月号

思いやりの心を育てる～北海道広尾町ホームステイ事後交流を通して

校長 末永 寿宣

2月6日（水）、今年度5年生がお世話になったホストファミリーの代表の方々と広尾町役場の方々が、本校を訪問してくださいました。半年ぶりの再会となり、家庭科の授業やクラスごとの会食を楽しんでいただきました。給食のメニューは、広尾町昆布の佃煮とザンギ（鳥の唐揚げ）、北海道産のジャガイモの入った味噌汁です。みそ汁のだしは、広尾町の昆布のおだしです。



▲思い出話がつきない5・6年生(二・三期生)



▲感謝の気持ちを伝える6年生(二期生)

二期生として広尾町の地を踏んだ現6年生は、感謝の気持ちを込め、運動会で演技したマーチングバンドの演奏を披露しました。ホストファミリーの方々は、ハンカチで涙をふきながら、手を振

っていました。代表の子が「北海道では大変お世話になりました！ありがとうございました！」と叫ぶと、6年生全員が最敬礼。ホストファミリーの方々は、「すごい演奏だったよ」と言いながら涙をぬぐっていました。



▲歌とメッセージのプレゼントを送る三期生。顔を合わせると涙があふれます。



▲家庭科の授業に参加していただきました。包丁の使い方や出しコンブやスジメコンブの説明もしていただきました。

方々へプレゼントし、大変喜んでいただきました。別れ際に、全員で記念撮影をし、いつかまた会おうと握手をして、再会を誓い合いました。

三期生は、ホストファミリーの方と一緒に家庭科で味噌汁作りに挑戦しました。だしは広尾コンブを使い、具材は豆腐とねぎ、大根でした。更に広尾町からプレゼントされた「スジメコンブ」は、コリコリしていてとてもおいしかったです。さらに、歓迎セレモニーが行われました。子どもたちは、広尾町での思い出ランキングを発表したり、歌をホストファミリーの

今回の歓迎会を通じて、子どもたちの心が着実に育っていることを実感しました。尾久西小の子ども一人一人が、お世話になった方への感謝の気持ちを忘れず、思いやりの心を育むために、地域や保護者の方々のご理解とご協力をいただきながら、子どもの可能性をさらに伸ばしてまいります。引き続き、ご協力をよろしくお願い申し上げます。



▲ホストファミリーの方々を囲み、笑顔で記念撮影



▲再会を誓い、ハイタッチをして別れました。これからもよろしくお願い致します。